

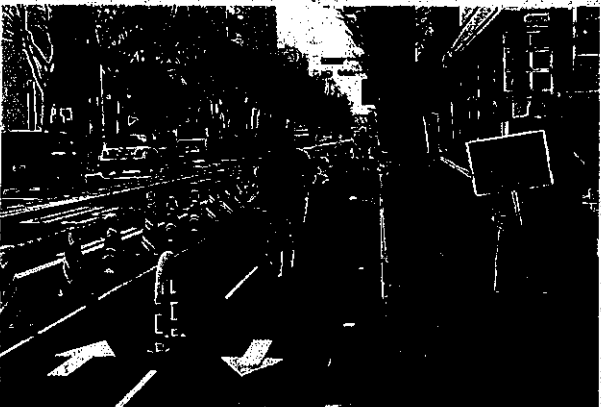
### 高松市の仮設「自転車専用道」アンケート

# 歩行者7割「安全」

高松市は、今年2月に市道の車道部分を区切って仮設した「自転車専用道」について利用者の反応や影響をまとめた。歩行者の約7割が「自転車道ができて安全になった」と評価した一方、車に乗る人の約6割が「道が混雑するようになった」と問題点を指摘した。市は今後、関係機関と協議しながら自転車道の常設化の是非について検討する。

(上地兼太郎)

歩道上で自転車と歩行者、車道上で自転車と自動車がそれぞれぶつかったり接触しかかったりする事例が市内で相次いでいることから、市は自転車専用道の可能性を探る実験を計画。2月22日、番町1丁自交差点(高松高校前)と幸町交差点(香川大学前)の間の東西540



今年2月に高松市が実施した自転車道社会実験の様子―高松市内

## 検討へ 是非の常設化 割6車「混雑」

際の市道で、片側2車線のうち歩道側の1車線を「コーン」で囲って自転車専用道にした。

市は期間中の18、19日、「近隣住民」「沿線の企業、学校へ通勤通学している人」「自動車や自転車の利用者」「歩行者」の計3855人へアンケート用紙を配り、2066人から回答を得た。

「自転車道ができて安全になったと思うか」との質問に対し、歩行者72%、自転車利用者59%、自動車利用者48%が「その恩恵」「メリット」の恩恵」と評価した。

「ほかの地域でも自転車道の実験をした方がいかに思えるか」との質問には、歩行者75%、自転車70%、自動車49%の人が肯定的な評価を寄せた。

ただ一方で、自転車に乗る人の約6割が「混雑が多くなった」「混雑がやや多くなった」と答えたほか、近隣の事業所へ勤める人や住民から、車道と歩道の間自転車道ができたことで「バスやタクシーの乗降りがしにくくなった」との指摘があった。車の運転者からも「荷合から荷物を下ろしにくいになった」という声が上がった。

また18、19日の2日間に市が確認したところ、自転車専用道を通らず歩道を走った自転車が25%もあった。

市道路課の吉原正文課長は「安全性が上がったという声が多かった一方、暮らして業務に支障が出るという課題も見つかった。実験結果をもとに、自転車道が実現できるかどうかについて地域住民や県、県警などと協議していく」と話している。